

よなごじょうせき
米子城跡 (国指定史跡)

米子城は山陰で他に先駆けて築かれた本格的な近世初期の城郭です。

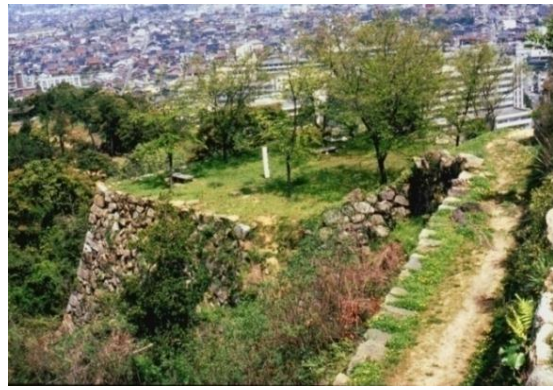
標高90mの湊山を中心に、北の丸山、東の飯山を出丸とし、内堀と中海で城山を取り囲み、さらに外郭に武家屋敷を配し外堀を巡らせた典型的な平山城です。五重の天守と四重の櫓をもつ壮麗な城でした。

米子城は応仁～文明年間(1467～1487)に砦として飯山に城が築かれたのが始まりと伝えられます。その後、毛利氏の吉川広家が天正19年(1591)に築城を開始し、次に伯耆国領主となった中村一忠が慶長7年(1602)頃に米子城を完成したといわれています。中村氏の断絶後、加藤貞泰、池田由之と城主は変わりましたが、寛永9年(1632)因伯領主となった池田光仲の家老・荒尾氏が明治まで米子城を預かりました。

明治の初めには米子城の建物の大半は売られて数年後に取り壊され、石垣を残すのみとなりました。現在、当時の城の建物はありませんが、石垣で築かれた郭が多数残されており、天守台からの眺めは素晴らしいものです。内堀内部の飯山と湊山の一部を除き大半が「湊山公園」と「国指定史跡」になっています。



米子城跡本丸遠望



ほんまるとうみやぐらあと
本丸遠見櫓跡



かんのうじ
感応寺の中村一忠主従木造



二の丸枡形入口